

スターチスにおける日射量が開花に及ぼす影響

1. はじめに

本県ではスターチス・シヌアータの栽培が盛んに行われており、栽培面積73haと全国1位の産地を形成しています。スターチス・シヌアータは、長日・高温条件で花芽分化、開花が進む相対的長日植物で、低温・短日条件でロゼット化することで開花遅延が生じることが知られています。しかし、日射量が開花にどのような影響を及ぼしているのか詳細は明らかになっていません。そのため、花茎の抽苔から開花に要する到花日数と日射量の関係について解析を行いました。

2. 方法

材料：‘サンデーバイオレット’（1区20株）

定植：2018年9月6日、購入した7.5cmポット苗を18ℓポリポットに1株植え

栽培：ガラス温室、最低気温5℃で管理、花茎の抽苔を確認した日から収穫（1週間に1回）までにかかった日数を到花日数とした。

3. 結果

到花日数と日射量の関係について分散分析を行ったところ、到花日数と積算日射量の間に高い相関が認められました（図1）。さらに花茎の抽苔時期を①10月2日～10月25日（日長減少期一日長11時間以上）、②10月30日～12月22日〔冬至〕（日長減少期一日長11時間未満）、③12月28日～2019年1月23日（日長増加期）に分けて解析を行ったところ、②10月30日～12月22日において特に高い相関が認められ（図3）、この時期に抽苔した花茎の成長には日射量の影響が大きいことが明らかになりました。また、同様の分析を到花日数と積算気温の関係について行ったところ、積算日射量とは逆に、①10月2日～10月25日と③12月28日～2019年1月23日において特に高い相関が認められました（データ略）。

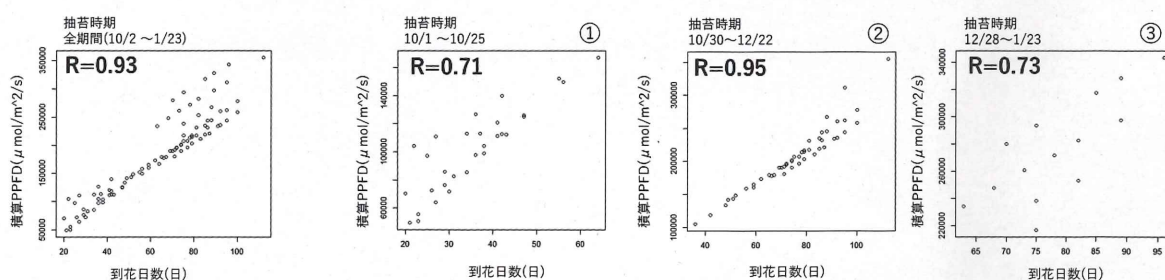


図1 到花日数と積算日射量の関係

4. おわりに

10月末～冬至（日長減少期一日長11時間未満）に抽苔した花茎の到花日数は、積算日射量と高い相関がありました。この時期には曇天により開花遅延することが示唆されますが、電照を用いて日長延長することにより、これが緩和できる可能性が期待されます。（園芸部 金川 真実）

和歌山県 農業試験場 暖地園芸センターニュース No.51

令和2年1月発行

編集・発行 和歌山県農業試験場暖地園芸センター

〒644-0024 和歌山県御坊市塩屋町南塩屋724

TEL:0738-23-4005 FAX:0738-22-6903

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/003/danchiengeicenter/003.html>

（この印刷物は再生紙を使用しております）

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。

VEGETABLE
OIL INK